

農業経営者の皆さんへ

～新たな農業経営指標を活用しましょう～

農林水産省では、農業経営者の皆さんが自らの経営改善のために活用できる「新たな農業経営指標」を策定しました。

この指標を活用して、経営改善に必要な取組の自己チェックや経営データの確認を行い、**経営のレベルアップを図りましょう。**

平成24年5月より、認定農業者の方は、経営改善計画に沿った経営改善を着実に進めるため、この指標を活用した取組を毎年行うこととなりました。

指標の活用はとても簡単！！

このパンフレットで指標の活用方法をマスターしたら、

手順は以下の3つだけ！

ステップ1

「経営改善のためのチェックリスト」と「経営データの記入フォーム」の様式を入手して、**取組の自己チェックと経営データの記入**を行います。

様式は、農林水産省ホームページ又はお近くの農林水産省農政局・地域センター、農業改良普及センター、市町村等にて入手できます。また、農林水産省のホームページから下記の「農業経営指標分析プログラム」に直接入力することも可能です。

ステップ2

農林水産省ホームページにある「農業経営指標分析プログラム」を活用して**評価結果シート**を作成します。

農林水産省ホームページ＞組織・政策＞経営＞新たな農業経営指標

<http://www.maff.go.jp/j/ninaite/shihyo.html>

ステップ3

評価結果シートをもとに、**現在の経営状況を確認**するとともに、**今後の経営の改善や発展の方向**を検討して、翌年の経営計画に反映させましょう。



(1) 経営改善のためのチェックリスト

記入方法

- 「取組指標」の各項目について、選択肢①～③の中から、自らの経営における現在の取組状況に最も近いもの1つを「取組状況」の欄に記入してください。
- 14の項目すべての取組状況を記入した後に、「改善の優先度」の欄を記入していただきます。取組状況が①のものには「－」を、取組状況が②または③のものには、優先度に応じて、○(早急(1年以内)に改善すべきもの)、△(2～3年以内に改善すべきもの)、×(当面取り組む考えのないもの)のうち1つを記入してください。

分野	番号	項目	取組指標	選択肢	記入例	取組状況	改善の優先度
経営管理	1	目標設定	中長期的に目指す経営の姿を経営目標として定め、家族・従業員等と共有している。	① 明確な目標を立て、それを家族・従業員等と共有できている。 ② 目標は立てているが、家族・従業員等と十分に共有できておらず、自分でもあまり意識していない。 ③ 目標を立てていない。		①	－
	2	計画立案	目標達成に向けた経営計画を立て、それに従って営農活動を行っている。	① 文書化した経営計画があり、これを基に、営農活動を行っている。 ② おおまかな計画はあるが、必ずしも計画を意識せず営農活動を行うこともある。 ③ 経営計画を立てていない。		②	○
	3	評価・改善	定期的に経営状況の確認・評価を行い、経営改善を図っている。	① 毎年、経営計画の達成状況を確認・評価し、次期計画の改善に結び付けている。 ② 経営判断をしたり、問題が発生しそうな時には、経営状況の確認・評価を行うようにしている。 ③ 経営状況の確認・評価を意識的に行ったことがない。		②	△
生産	4	農作業記録	毎日の農作業記録を書面で残し、作業の改善に役立っている。	① GAP等に基づき、生産工程を適切に管理し、作業改善に結びつけている。 ② 主な農作業については、作業内容や作業時間等の記録を残すようにしている。 ③ カレンダーに記入したり、メモを残しておく程度できちんとした農作業の記録は付けていない。		①	－
	5	資材調達	資材価格の比較・検討を行い、調達先を決めている。	① 複数の調達先を比較・検討し、価格・サービス等を総合的に判断して調達先を決めている。 ② 他の調達先についても調べているが、調達先を変更したことはない。 ③ 調達先について比較・検討をしたことがない。		②	△
	6	コスト管理	生産に係るコストを常に管理し、収益の増加を図っている。	① 機械の償却費や支払金利等も含め、すべての生産コストを把握し、その低減に努めている。 ② 資材費等の直接的な経費については、生産単位(10a、1頭など)当たりで把握できている。 ③ 生産に係るコストを自分で計算したことがない。		②	△
販売・加工	7	強み把握	他と比較して、自らの農産物の品質や特性の強みを把握している。	① 市場のニーズや消費者の評価を把握し、強みを活かした販売戦略の構築や商品開発を行っている。 ② 強みは把握しているが、販売戦略には十分には活かされていない。 ③ 強みが何かよく分からない。		②	○
	8	販路確保	複数の販路を比較・検討して販路を決定するなど、安定的な販売のための取組を行っている。	① 複数の販売先を比較・検討し、総合的に判断して販路を決定している。 ② 他の販売先についても検討したことがあるが、基本的には販路は固定している。 ③ 販路を変更しようと考えたことがない。		①	－
	9	付加価値	リスクへの備えをした上で、食品加工や直接販売等による付加価値の向上に取り組んでいる。	① 付加価値の向上に取り組むとともに、食の安全や消費者の信頼に関わる取組を行い、リスクに対応している。 ② 付加価値の向上に取り組んでいるが、食品事故等のリスクへの対応が十分とは言えない。 ③ 付加価値の向上に取り組んでいない。		③	×
財務	10	資金区分	経営のための資金と家計のための資金を明確に区分している。	① 経営と家計の間の資金移動について、事業主報酬や給与の形で定額とするなど一定のルールを定めている。 ② 経営と家計の資金を区分しているが、経営と家計の間の資金移動に特段ルールを設けていない。 ③ 経営と家計の資金を区分していない。		①	－
	11	財務諸表	財務諸表を整備し、適切な財務管理や税務申告を行っている。	① 貸借対照表を作成し、適切な財務管理を行っている。 ② 帳簿を付け、青色申告は行っているが、貸借対照表は作成していない。 ③ 青色申告に必要な帳簿を付けていない。		②	○
労務	12	労働環境	家族・従業員の意欲を高めるために、労働環境の改善に取り組んでいる。	① 家族や従業員が意欲を持って従事できるよう、労働環境の改善に積極的に取り組んでいる。 ② 農作業安全への配慮など、一定の労働環境の改善には取り組んでいる。 ③ 労働環境の改善について、あまり関心をもっていない。		①	－
	13	福利厚生	家族や従業員を含め、必要な社会保険や労働保険、公的年金等に加入している。	① 家族や従業者等すべてが必要な社会保険や労働保険、公的年金等に加入している。 ② 必要な保険・年金に経営主は加入しているが、家族や従業員は加入していないものがある。 ③ 必要な保険・年金のうち、経営主が加入していないものがある。		③	○
地域活動	14	地域活動	地域農業の発展に資する活動を行っている。	① 地域農業に関する活動で中心的な役割を担っている。 ② 関係者とともに地域農業に関する活動に参加している。 ③ 地域農業に関する話合いには最低限参加しているが、具体的な活動は行っていない。		①	－

(2) 経営データの記入フォーム

記入方法

1. 経営改善計画の申請書及び「青色申告決算書(農業所得用)」等を参照しながら、各項目欄に数字を記入してください。ほとんどの項目が、これらの書類からそのまま転記するか、簡単な計算をすることで記入できます。
2. 青色申告を行っていない方も、伝票や通帳等を用いて、できる限り該当する項目に記入して下さい。

[労働力]

記入例は、水田作(都府県)経営のもの。

農業従事者	[現 状]				[目標(5年後)]						
	農業従事日数 (年間) 日		農業労働時間 (年間) 時間		農業労働時間 (年間) 時間						
本人(経営主)	2	5	0	2	1	0	0	2	0	0	0
配偶者	2	0	0	1	6	0	0	1	2	0	0
長男	2	5	0	2	1	0	0	2	0	0	0
計 (1)	7	0	0	(2) 5	8	0	0	5	2	0	0

[農地]

	[現 状]				[目標(5年後)]													
	所有し耕作している 農地面積		他から借り入れて 耕作している 農地面積		基幹作業を受託し て耕作している農 地面積		合計		合計									
	ha (町)	a (反)	ha (町)	a (反)	ha (町)	a (反)	ha (町)	a (反)	ha (町)	a (反)								
田		8	0	1	3	2	0		1	5	4	0		1	7	2	0	
畑 (牧草地 を含む)																		
樹園地		8	0								8	0			8	0		
計	1	6	0	1	3	2	0	1	4	0	(3) 1	6	2	0	1	8	0	0

[生産・販売]

品目	[現 状]			[目標(5年後)]					
	作付面積 ha (町)(反)(畝)		生産量 kg	販売金額 (売上) 円	作付面積 ha (町)(反)(畝)		生産量 kg	販売金額 (売上) 円	
米	(4)	9	1	0	(8)	45,000	(12)	6,200,000	
小麦	(5)	1	3	3	0	(9)	56,000	(13)	5,700,000
ぶどう	(6)		7	5	(10)	5,000	(14)	773,000	
計 (7)	2	3	1	5	(11)	106,000		12,673,000	
農業関連 事業									
農産加工								1,770,000	
計					(15)			14,443,000	

[財務]

	[現 状]			[現 状]			
	科目	金額 円	割合 %	資産		負債・資本	
				科目	価額 円	科目	価額 円
収入	販売金額	14,443,000	54	現預金 (21)	12,817,000	借入金 (25)	4,000,000
	交付金等	10,000,000	37	その他流動資産	82,000	その他負債	2,850,000
	その他雑収入	2,300,000	9	流動資産計	12,899,000	負債計 (26)	6,850,000
	計 (16)	26,743,000	100	減価償却資産 (22)	26,467,000		
経費	材料費 (17)	4,761,000	22	土地 (23)	18,796,000		
	労務費	425,000	2	その他固定資産	40,000		
	減価償却費 (18)	3,938,000	18	固定資産計	45,303,000	資本 (27)	51,352,000
	地代・貸借料	1,672,000	8	計 (24)	58,202,000	計	58,202,000
	販売費	4,939,000	22				
	その他	6,321,000	29				
計 (19)	22,056,000	100					
農業所得 (20)	4,687,000						

[目標(5年後)]		
7,000,000	50	%増

(3) 指標による評価結果シート

シートの見方

(農業経営指標分析プログラムに(1)のチェックリストと(2)の経営データの記入フォームを入力すると、評価結果シートが自動で出力されます。)

- [現状と目標] 経営の基本データの現状と目標の値が示されています。それぞれの項目について、主業農家の標準的な水準(指標値①)及びトップクラスの主業農家の水準(指標値②)と比較しながら、自らの現状や目標の水準等について確認して下さい。
- [技術指標] 技術水準を示す各種指標の値が示されています。それぞれの項目について、上記と同様に2つの指標と比較しながら、自らの技術水準を確認して下さい。
- [財務指標] 財務状況を示す各種指標の値が示されています。それぞれの項目について、望ましい水準の範囲内にあるかどうか確認して下さい。
- [取組指標] (1)のチェックリストで記入した取組状況及び改善の優先度が図示されていますので、いつ何の取組を改善していくのか確認して下さい。

最後に、それぞれの指標を総合的に評価して、今後、どのように経営の改善・発展を図っていくかを検討し、翌年の経営計画に反映させて下さい。

[現状と目標]

項目	単位	現状	目標	指標値① (主業農家の標準的な水準)	指標値② (主業農家の上位20%の水準)
農業従事者数	人	3	3	2	3
総労働時間	時間	5,800	5,200	3,092	5,080
経営耕地面積	a	1,620	1,800	956	2,073
総売上	千円	26,743	32,000	14,223	29,939
総費用	千円	22,056	25,000	8,718	18,188
農業所得	千円	4,687	7,000	5,011	11,093

指標値は、水田(都府県)経営のもの。

[技術指標]

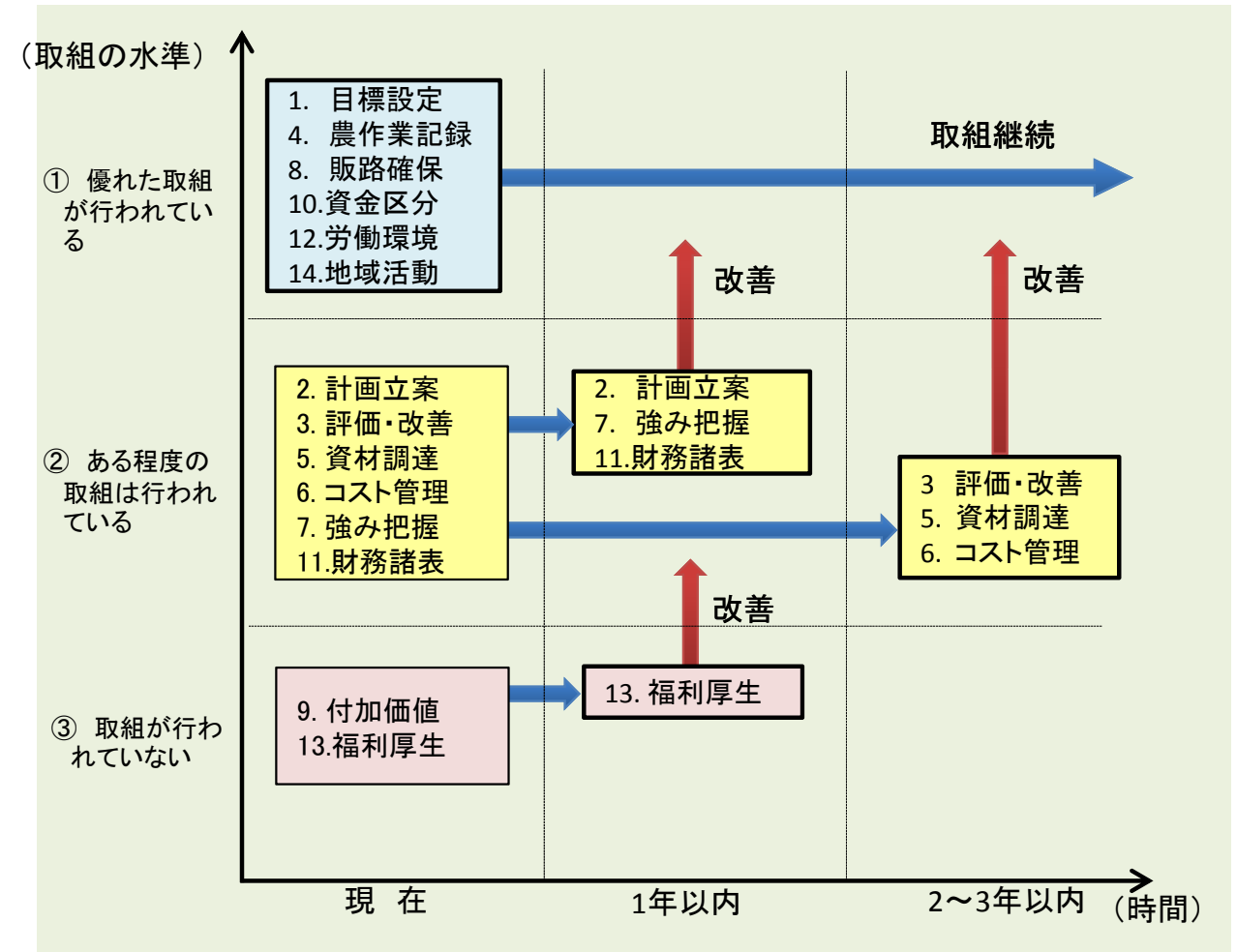
項目	単位	現状	指標値① (主業農家の標準的な水準)	指標値② (主業農家の上位20%の水準)	評価
※ 単収					
米	kg/10a	495	528	564	
小麦	kg/10a	421	393	401	
ぶどう	kg/10a	667	1,103	1,265	
※ 土地生産性					
米	千円/10a	68	112	124	
小麦	千円/10a	43	27	29	
ぶどう	千円/10a	103	558	795	
全体	千円/10a	78	138	181	
労働生産性	円/h	4,611	5,005	8,370	
農業従事者1人 当たり農業所得	千円/人	1,562	2,759	5,417	
生産単位当たり 労働時間	時間/10a	25	27	16	
売上高材料費比率	%	18	19	15	
農業所得率	%	17.5	38	48	

※ 品目別の指標は指標値①が全国平均の値、指標値②が上位20%の都道府県の平均値。畜産に関しては、飼養頭羽数当たりの生産性。

[財務指標]

項目	単位	現状	望ましい水準	評価
売上高借入金比率	%	15	0~100	
生産単位当たり 借入金	千円/10a	25	0~130	
生産単位当たり 農業用固定資産額	千円/10a	163	0~130	
自己資本比率	%	83	30~100	
売上高現預金比率	%	48	20~200	

[取組指標]



<評価の例>

- A: トップクラスの水準(上位20%内)の項目
- B: 平均的な主業農家の経営を上回る水準の項目
- C: 平均的な主業農家の経営を下回る水準の項目
- D: 算出に必要なデータが把握されていない項目

- : 望ましい水準の範囲内にある項目
- △: 望ましい水準の範囲外にあり、注意を要する項目
- ▲: 経営と家計の区分がされていない可能性のある項目

よくあるご質問

Q1 農業経営指標による自己チェックはいつ行えばよいのですか。

1. 新たな農業経営指標は、農業者の皆さまが経営改善に必要な取組ができてきているか、自分の経営状況はどうかを確認し、今後の経営改善に役立てるためのものです。
2. このため、この指標による自己チェックは、健康診断と同じように、毎年1回定期的に行っていただくことが効果的です。
3. 1年のうちでいつ行うかは、皆さまの都合に合わせて決めてください。

Q2 指標の見方がよく分からないのですが…。

1. 指標の見方については、農林水産省ホームページで、指標の意味等を解説した「自己チェック用ガイド」が入手できますのでご参照下さい。
2. それでも分からない場合には、お近くの農林水産省農政局・地域センターや市町村、普及指導センター等の関係機関で経営指導を担当されている方にご相談下さい。

Q3 自己チェックの結果はどこかへ提出するのですか。

1. 認定農業者の皆さまにおかれましては、毎年の自己チェック結果を認定期間の中間年（3年目）及び最終年（5年目）に市町村へ提出していただくことが必要です。
2. 提出までの間、「経営改善のためのチェックリスト」「経営データの記入フォーム」「評価結果シート」の3点の資料は大切に保管しておいて下さい。

Q4 パソコンを持っていなくても指標に取り組みますか。

1. パソコンを持っていなくても、関係機関から様式を入手すれば「経営改善のためのチェックリスト」及び「経営データの記入フォーム」は記入できます。
2. 「評価結果シート」の作成にはパソコンが必要ですので、パソコンを持っている方に手伝っていただく等により作成して下さい。

お問い合わせ先

農林水産省 経営局 経営政策課 03-6744-2143（直通）